

第13回ちゅら眼科懇話会のご案内

謹啓、時下先生方におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は弊社製品に関しましては格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

この度、第13回を迎えます「ちゅら眼科懇話会」は例年、琉球大学のご同門の先生方にご参加頂き開催しておりましたが、昨年に続き今回もコロナ感染防止の為WEBにて開催させて頂くことになりました。つきましてはWEB開催にあたり沖縄県内の多くの先生方にご参加賜りたく、ご多忙中とは存じますが何卒、お申込み頂けます様お願い申し上げます。 謹白

日時： 2021年12月17日（金） 19：00～20：00

開催方法： **WEB講演会**

申込期限： 2021年12月13日（月）

申込方法： 別紙の「WEB講演会事前参加申込書」に ①施設名 ②お名前 ③メールアドレス
をご記入の上FAXをお送り頂くか、下記申込メールアドレスまで上記①～③をご入力の上
送信いただきますようお願い申し上げます。 ※別紙記載 FAX：092-732-5233
頂いた事前参加申込書のメールアドレスに視聴用URL記載の視聴案内をお送りいたします。
申込メールアドレス：eijirou.sakamoto@hoya.com（HOYA株式会社 坂元栄二郎）

参加費用： **不要**

製品紹介 19：00-19：10

HOYA株式会社 メディカル事業部

『HOYA Vivinex Toric について』

特別講演 19：10-20：00

座長 古泉 英貴 先生（琉球大学大学院医学研究科 眼科学講座 教授）

演者 渡辺 彰英 先生（京都府立医科大学 眼科学内講師）

演題 『エビデンスに基づいた眼形成疾患の診断と手術～眼形成疾患の診療レベルを高めよう！～』

眼形成疾患の中には、眼瞼の異常から甲状腺機能亢進症や切迫脳動脈瘤などの疾患を発見できることがあるが、眼瞼悪性腫瘍を経過観察し転移を生じてしまう、また顔面神経麻痺の兎眼に対して保存的な治療のみを継続し角膜混濁をきたしてしまうなど、適切に診断できなければ大きな問題を生じることもある。

また、頻度の高い疾患である眼瞼下垂の診療においても、挙筋機能があれば挙筋短縮術、なければ前頭筋吊り上げ術、皮膚弛緩があれば余剰皮膚切除術など治療の選択肢が多く、さらに術前の眼表面の状態によっては術後どの程度の開瞼にするべきかの目標も異なる。このように眼瞼疾患に対する手術は、患者さんの疾患の程度や状態に応じて術式を適切に選択し、個別に目標を設定する必要がある。

本講演では、眼瞼・眼窩・涙道領域の眼形成疾患における診療レベルを高めるために、重要な疾患に対するエビデンスに基づいた深い見方と考え方をアップデートする機会としたい。

略歴

1998年 京都府立医科大学卒業
1999年 綾部市立病院眼科
2001年 国保久美浜病院眼科
2005年 聖隷浜松病院眼形成眼窩外科
2008年 京都府立医科大学眼科助教
2011年、2012年 アデレード大学眼科留学
2020年 京都府立医科大学眼科学内講師 現在に至る

専門領域：眼形成眼窩外科

2014年～日本眼科手術学会理事、日本涙道・涙液学会理事

2018年～日本眼腫瘍学会理事

2020年～日本眼形成再建外科学会理事

主催 HOYA株式会社 メディカル事業部

お申込締め切り:12月13日(月)

FAX:092-732-5233

WEB講演会事前参加申込書

〔第13回ちゅら眼科懇話会 開催日:12月17日(金)19:00～〕

施設名:

ご芳名:

メールアドレス:

(視聴用URL 視聴案内受け取り用)

※メールアドレス等個人情報は本講演会以外の目的では使用いたしません。

講演会終了後、速やかに破棄いたします。

*この講演につきましては参加費用はございません。

主催 HOYA株式会社 メディカル事業部